

様式第2号（第5条関係）

平成 29 年 8 月 8 日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦 様

栗山町議会議員 千葉清己



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成 29 年 7 月 29 日 ~ 平成 29 年 7 月 30 日まで
- 2 旅 行 先 東京都 千代田区 法政大学
- 3 目 的 市民と議会の条例づくり交流会
- 4 関係書類 別紙のとおり



政務活動報告

研修先：東京都千代田区 法政大学

研修日：2017年7月29日～30日

研修者：千葉 清己（外に全国から152名の議員・市民が参加）

研修内容：市民と議会の条例づくり交流会議2017

「議会のチェック機能を本気で考える」

1日目

- ・全国自治体議会の運営に関する実態調査2017

長野 基（首都大学東京）

- ・基調講演「議選監査委員と議会のチェック機能」

江藤俊昭（山梨学院大学）

- ・パネルディスカッション

馬場伸一（福岡市役所前監査事務局長）

伊藤真一（東村山市議会議員 元監査委員）

桑畑健也（所沢市議会前議長 元監査委員）

1日目は地方自治法の改正により議選監査委員が選択制になったことにより「議選監査委員は必要か？」という内容で議選監査委員の仕事の内容や監査制度の在り方などについて議論したが、参加者の意見は「議選監査委員は今後も必要である。」という意見が大半であった。今後は監査委員制度を含む議会の監視機能の充実が住民に理解される取り組みが必要と考える。

2日目

- ・第1分科会 新公会計制度と決算審査
- ・第2分科会 シチズンシップ教育と議会
- ・第3分科会 議会基本条例を改めて学ぶ

参加したのは第3分科会で提起者は中尾修元栗山町議会事務局長、清水克士大津市議会局次長、廣瀬克哉法政大学教授の3名。

中尾氏からは議会基本条例制定時の経過、清水氏からは現在、日本一、議会改革が進んでいる大津市議会の政策立案の制度設計の話があった。

午後からの全体討論は各分科会報告とこれからの議会を考える討論があった。

第1分科会からは自治体会計システムは現金主義会計は限界があり、住民への説明責任を果たすためにも、資産管理、財政推計、公債費等を明らかにするために公会計制度の導

入が求められている。

第2分科会からは都内の高校生が発言し、18才選挙権付与から、どうすれば若者が政治に関心を持てるか、の提起があった。また、大学生からも同様にアメリカとフランスの大統領選挙を現地まで行って学び、これからの日本の若者の政治参加について発言があった。

全体としての感想は単に決算審査で終わるのではなく、議会の監視機能をいかに発揮させるか、そのための議選監査委員は何をすべきか？特に議選監査委員は重大な守秘義務を負っているので、その制限のなかでの監査委員のあり方について学ぶところが多かった。

また、中尾氏の説明の中で私が知らなかった過去の経緯なども知れて、新たな発見があった。

特にあらゆる場で提起された「議員の意識改革」については改めて、己を見つめ直したいと思った。